

認知症と向き合う②

身近な人が認知症になったときの対応

認知症は数年かけ、ゆっくり進行する病気ですが、家族や周囲の方が早期から認知症を正しく理解して関わることで、進行を緩やかにできることがわかってきています。市では、認知症の方やその家族・周囲の方が、今後の見通しを持って地域で生活できることを目指し取り組みを進めています。

身近な人が認知症になったときにはどうしたらよいか

～認知症になっても 怖がらない・隠さない・一人じゃない～

1. まずは相談する

認知症に関する相談・問合わせ先

①かかりつけ医

②半田市包括支援センター

〒475-0918 半田市雁宿町1-22-1 ☎23-8144

③半田市高齢介護課

〒475-8666 半田市東洋町2-1 ☎84-0644

2. 認知症特有の症状を理解する

認知症は、脳の細胞が壊れることによって、新しいことが覚えられない・時間や季節の感覚が薄れる・慣れないことで混乱しやすくなるなどの「中核症状」と、本人の元々持っている性格、環境、人間関係などの要因がからみ合って、うつ病や妄想のような精神症状や、日常生活への適応を困難にする行動が起こる「行動・心理症状 (BPSD)」とがあります。

3. 認知症の方との関わり方のコツを知る

認知症で記憶などに障がいが出て、人としての感情の動きがなくなってしまうわけではありません。自信を無くし心理的に不安定であったり、心を許している人に限って辛く当たる傾向があったりという特徴を理解し、認知症の方の気持ちを十分にくみ取りながら接することが大切です。

4. 認知症の治療方法を理解する

認知症の進行を抑制したり、行動・心理症状 (BPSD) を緩和したり、認知機能の回復を図る代表的な治療方法は、薬物療法、回想法や音楽療法などの非薬物療法、周囲のコミュニケーションやサポートなどのケアの3つです。

5. 認知症の方への支援を知る

市では、「認知症になっても、誰もが自分らしく暮らせるまち・はんだ」を目指し、認知症の正しい知識、予防のポイント、相談先や利用できるサービスの一覧、介護をする方の心構えなどを4つのガイドブックにまとめました。

配布先 市役所高齢介護課、半田市包括支援センター、市立半田病院



徘徊搜索模擬訓練を実施しました

認知症により行方不明になった際に早期に発見する仕組みづくりの一步として、5月8日、星崎町の地域ふれあい施設「かりやど憩の家」周辺一帯で、搜索模擬訓練を行いました。テレビ局など多くのメディアも注目する中、訓練では、加藤電機株式会社（花園町）が開発した日本で初めてGPSを利用しない探知・見守りサービス「SANフラワー見守りサービス」を利用して、探索する側がレーダーを、探索される側が端末を所持して、訓練が行われました。



プラチナカフェ・りんりん店が始まります

認知症の方やそのご家族などが、気軽にお茶を飲みながら相談したり、リフレッシュする場がスタートします。



- **日時** 6月2日 (火) から毎週火曜日 10時～14時
- **場所** NPO法人りんりん敷地内 りんりん茶屋 (岩滑高山町5-4)
- **費用** 喫茶代300円 軽食代500円